

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education 教育に新聞を



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内
☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

来年度 NIE 実践校

「3年継続」認定へ

新聞活用の定着を目指す

日本新聞教育文化財団は11月中旬に開いたNIE委員会で2007年度の新聞提供事業などについて審議し、NIE実践校は本年度と同じ「全国500校」を継続することを決めた。ただ、実践期間については従来の「原則2年」ルールを弾力的に運用し、実践校の枠内で「3年継続」を認めることにした。この決定を受け、道内の報道各社で組織している北海道NIE推進協議会(山田家正会長)は、年明けから来年度実践校の応募受け付けを始める。

1月募集スタート

道内では、ここ数年、新規校を増やす狙いから「原則2年」を適用してきたが、来年度は「3年継続」に道を開き、新聞活用授業の定着、強化を目指す。

読は2学期からスタートしており、実践期間は「原則2年」といっても実質1年半にとどまってくる。実践教諭から「ようやく新聞に慣れてきた」と

ろで実践が終わってしまふ」との声が相次ぎ、終了後も引き続き新聞提供を希望するケースが目立ち始めた。

来年度の弾力運用は、こうした教育現場の声にこたえたもの。

本年度の道内実践校は財団認定校35校と当推進協議会の独自認定校8校の合計43校で、都道府県別では3年連続して全国最多を数えている。財団認定校のうち、1年目の新規校が19校、2年目の継続校が16校あり、この全校が「3年継続」の権利を有することになる。

このため、継続校については、すでに調査用紙を配布し、意向確認を進めている。

新規校を含め、来年度

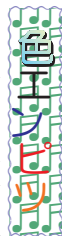
の応募受け付けは1月から行い、3月半ばまでに推薦候補校を絞り込む予定。財団認定校の道内枠は32校で、「全国500校」に達しない場合はさらに3校が認められる。

新規校の認定は07年7月にずれ込むが、継続校については各推進協議会の推薦で4月以降、順次新聞購読が始まる。

NIE実践校に対する新聞提供は実践教諭の人数により期間が異なり、2人以上なら2カ月間、3人以上なら4カ月間となる。どちらの場合も、全国紙(朝日、毎日、読売、日経、産経)と地方紙(北海道、地域紙(室蘭民報、苫小牧民報、十勝毎日、釧路)合わせて6-8紙を購読できる。

毎月が師走

師走も大詰めだが教師は毎月が師走。小学校で英語教育が始動している最中に大臣が必修化に否定的なコメント。教師は戸惑っている▼学校の間格差の拡大、学力の二極化現象、親は子供が「負け組」になることに不安と危機感を強め学校選択に走る。教育が親の経済力や職業・階層などに影響されている▼いじめによる自殺事件、自殺予告の手紙が学校や大臣に送られている。イソップ物語のカエルの話「どうか石を投げるのはやめてくれ/君たちには遊びでも/わたしたちには/命の問題なのだから」カエルの自分を置き換えて想像力を引き出すのもいじめ防止のひとつ▼高校の世界史必修の未履修問題、受験者に有利になるように細工したが逆に生徒が犠牲。進学競争に勝ち抜くためとはいえ、市場原理の負の部分が露呈している▼小学校でNIEの授業を参観した。6年の学級指導。「いじめ」について新聞記事を活用。続く小中学生の痛ましい事件、全員が問題解決に向けて真剣に討議していた。こんな授業が各校で実践されれば「いじめ」はなくなると思える▼教師ではなく僧侶が仏事で走り回ると言う本来の師走を取り戻したい。(高)



「東京の小学生に会ってみたい」。そんな願いを持った女の子が、新聞づくりを通してその夢を実現しました。夢のきっかけも、「新聞」でした。昨年8月の全国新聞教育研究大会・帯広大会に東京から参加した先生のクラスの子どもたちから手紙が届き、そこから交流が始まりました。

こちらから、十勝の自然の様子や季節の便りを。東京からは、下町の商店街や臨海学校の様子を。手紙のほか、新聞の形を用いてやりとりしました。



人をつなぐ新聞作り

足寄町芽登小教頭

野上 泰宏

そんな中、一人の4年生が「かべ新聞」に挑戦。今まで国語や理科の学習でまとめたものを再構築し、3年間にわたり取り組んでいる「地元レストラン」との学習をまとめ、完成させました。その新聞が「第二回わがまち新聞コンクール」で入賞し、授賞式の前日には東京の小学校を訪問出来ました。

今回の活動は「新聞づくり」に主眼がいきますが、NIE認定校の利を存分に活用させていただき、レイアウトや見出しの言葉を参考にし

報を発信する上で、情報を読み解く力や情報を処理する力が必要であることを強く感じました。「新聞づくり」と「NIE」を活動のあとさきや

す。その鍵となるのが、「学習」したことを「生活」に生かすことです。つまり、「新聞教育は学校での学びと日常生活との橋渡しになる」と考えているのです。

そしてこの学習の基盤は、「人に伝えたい」という想いです。「情報は人をつなぐ」ことや、「新聞づくりは仲間づくり」という言葉を実感する機会になりました。表彰式の挨拶で、「テレビに出ていた夕張のお姉さん方に会えてうれい」と話した彼女。全校児童7人の小さな学校から人のつながりは新聞を通して、次々に広がっています。

走を取り戻したい。(高)

「新聞作りは学級作り」

●苦小牧

NIEに取り組む実践校が、今多くなっていることから、今回初めて開催、約20人が出席した。

実践発表では、浦河町東部小の鹿海圭吾教諭が6年を対象にして、スクラップ作りと新聞ニュースをテーマにした朝のスピーチのほかに、総合的な学習の中でも記事を分析、比較させており、内容が難しくても積極的に読もうとする子供たちが増えていると報告した。

苦小牧市明倫中の石山勝英教諭は「新聞作りは学級作りの手段」との考え方を具体的に説明し、継続的な取り組みが必要と強調。浦河高の杉本舞子教諭は、2年の国語力向上のため記事を読解に感想文を書かせ、新聞にも投稿しており、少しずつ効果が上がっていると報告した。

NIEの授業経験が豊富な白老東高の平野撰子教諭は、3年の国語表現の授業の中で「読む、書く、話す」能力のレベルアップを目的としたニュースレポート授業の内容と成果について報告した。

苦小牧西高の浦川雅智教諭は、記事の読後感をワークシートにまとめさせており、新聞に興味を持つ生徒が確実に増えていると説明。NIE実践の認定校になり、9月から新聞8

NIEの第1回苦小牧・日高セミナーが10月28日、第6回旭川セミナーが12月2日、それぞれ北海道新聞苦小牧、旭川両支社で開かれた。参加者たちは新聞を教材にした授業の実践内容を発表し合ったが、いずれのセミナーでも、新聞に興味を持ち記事を読む児童・生徒が確実に増えているとの報告が相次いだ。



新聞に興味を持つ児童・生徒が増えているとの報告が相次いだ苦小牧・日高セミナー

新聞への興味 着実に

記事の多様な活用例が発表された旭川セミナー



土別市温根別中の志満朋佳教諭は、新聞作りの取材活動を通じて、生徒たちの情報活用能力や多角的に考える力などを育てたいと抱負を述べ、土別市東高の大端開教諭は、公民科の授業では積極的に新聞記事を使い、生徒の学習意欲を喚起させたいと提言した。

百円ショップで「経済」

●旭川

学校関係者約20人が参加し、6人の教諭が実践発表したあと、NIEアドバイザーの小林直樹・旭川市第1中教諭がNIE実践の定着を目指す手順について、具体的な例を挙げ説明した。

実践発表では、旭川市大有小の池田謙治教諭は、5年の道徳の授業で、新聞の投書を使って公德心の方向を考えさせたが、投書の内容には臨場感があり、問題意識の醸成に役立つと述べた。

また同小の荒川義弘教諭は、6年の算数の授業で、新聞記事のグラフを使ったところ、子供たちはグラフの有効性に気づき、学習意欲が高まったと報告した。

旭川市緑が丘小の福山誠教諭は、5年のクラスを対象に朝の会で新聞記事の発表、要約させており、無理なく、楽しく、継続的な活動を目指していることを報告した。

旭川市光陽中の田中聡教諭は、3年の社会科で百円ショップの新聞記事を取り上げ、外国との関係や影響をふくめた「生きた経済」を学ぶことで、生徒たちに社会的な思考判断力や資料活用・表現能力の向上がみられたと報告した。

紙が届いている静内農高の工藤淳教諭は、現代社会だけでなく、農業、保健体育など各教科で記事を活用している例を紹介した。

NIE実践奮闘記

七飯高教諭

高瀬 容子



教育における新聞の活用は、ずっと以前から行われており、私も新採用の頃から行って来ましたが、その頃は「なぜ新聞なのか」「生徒達は新聞を用いることでど

力まず好機逃さず

のように変わるのか」といった、いわば「へ理論」の裏打ちがなされていませんでした。それでも、経験上その「効果」を感じ取り、続けて来た取り組みがあります。

それは「新聞から題材をとった意見文の発表」です。私は、生徒達に「表現するとはどういうことなのか、言葉は何のためにあるのか」ということを、体験を通して理解させたいと考えています。しかし、これにはこの取り組みが効果的だと思ふのです。

の先生方の賛同はなかなか得られず、実践が可能なのは自分の裁量が認められる科目に限られます。生徒の数も20名以下が望ましく、これらの条件が揃うのを私は「虎視眈々」と待ちます。

この取り組みで期待する「生徒達の変貌」は、人の前で立派に発表したいという意欲が高まり、実際に立派に発表できたことにより自信を持つようになること、そして、互いに相手の言葉に耳を傾け合う一時(ひととき)を経験することで、他者に対する受容的態度も高まるということです。勿論、社会への関心を高めるという点と、普段新聞を読む習慣の余りない生徒には、新聞の面白さを体感させるという狙いもあります。

そして、この取り組みでは副産物も得られます。それは生徒の信頼感が深まることです。生徒の文章を、生徒の気持ち、生徒が書きたいことを変えずに良い表現(分かり易い表現)となるよう個別に指導をすることで、生徒は満足し、安心して発表に臨むのです。また、生徒達の適切なアドバイスのための次の実践のバージョンアップに大いに役に立ちます。

これからも、私は、力まず無理をせずしかしチャンスは逃さず、その生徒達の実態に合わせたバージョンでの取り組みを続けて行こうと考えています。

中東和平へグループ討論

NIE研究大会

「生きる力を育む
NIE」多面的な
もの見方ができる
子どもの育成を
目指して」を
テーマに第

11回北海道NIE研究大会が11月10
日午後、北星学園女子中学高等学校で、
道内各地から約70人の教育関係者ら
が集まって開かれた。

北星女子が公開授業

開会式前、同校の新聞
を使った中学、高校の授
業が公開された。貞広康
子教諭の中学2年B組
「社会科」の授業では、
中東問題がテーマ。夏休
みの宿題で作った記事ス
クラップを材料にイスラ
エル、パレスチナ、米
国や国連などのグループに
分かれて、それぞれの立
場で発言、パレスチナの
平和を実現するために何

実践「まとめる力」成果披露

が必要かを考えた。田
邊元教諭の高校2年
F組「英語科」の授業は
「新聞記事を読み比べて
みる」。日本の三冠馬・
ディープインパクトが出
場した仏凱旋門賞のレー
スを報じた英字新聞2紙
の記事を分析し、視点、
記事の書き方を比較して
違いを考えさせた。
いづれの授業も、教材
としての新聞の使い方が

教諭が公開授業の構成や
生徒の反応などを説明、
さらに3教諭による実践
発表があった。
札幌市山鼻南小の八島
秀樹教諭は、3年の国語
で、3分間で記事を読ん
で3行でまとめさせる授
業に取り組んでおり、子
供たちは新聞に興味を持
ち、わからない漢字が多
くても何とか読めそうに
なったと学習成果を披露
した。
室蘭市北辰中の宗像美
貴子教諭は、1〜3年全
ての必修国語科で、新聞
のコラムを読む授業を続
けた結果「読み書き、ま
まとめる力がついた」と感
じる生徒が増えた」と報
告した。
札幌静修高の妹尾知哉

「いじめ」題材に授業

十勝新聞教育研究会



教諭は、総合社会演習を
選択する3年を対象に①
新聞そのものの扱いに慣
れる②1紙を読み国内外
の出来事に関心を持つ③
複数紙を読み比べ、自分
の見解を述べる④の3段
階の新聞活用授業を展開
している。授業の仕上げ
に個人新聞を作成させた
結果、生徒たちは新聞に
親しみ、社会情勢に関心
を持つようになったと報
告した。

第17回十勝新聞教育研
究会が「生きる力を育て
る新聞教育」をテーマに
12月5日、NIEの実
践校、幕別
町北小で開
かれた。2年
生の新聞作
りⅡ写真Ⅱ
や6年生の
新聞を学習
教材にした

授業が公開され、2年生
は生活科「郵便局たんけ
んをまともよう」の授業
調べたことをB5判の用
紙に貼る新聞を作る作業
学習。題字や見出し作り
を工夫し、できた作品を
発表しあった。
6年生は「いじめ」を
題材として複数紙から
「命の尊さ」に関する記
事や読者の投稿を活用し
た道徳的学級活動の授業。
学習が深まると感極ま
った子供たちの中から「
いじめは絶対許されない」
「いじめの被害者がいた
ら助けてやる」「自分が
いじめられたら困る」な
どの内面を正直に出した勇
気ある発言もあった。
その後、参加者に新聞
が配布され「都道府県名
のある記事」を探したス
クラップづくりの講習会
があった。

地域に広がる新聞学習

NIE学会で実践例紹介

昨年3月に設立された
日本NIE学会(影山清
四郎会長)の第3回大会
が、11月18、19の両日、
横浜市保土ヶ谷区の横浜
国立大学常盤台キャンパ
スで開かれたⅡ写真Ⅱ。

大会には、NIE活動に
取り組んでいる全国各地
の実践教諭をはじめ、新
聞各社の関係者ら約23
0人が参加した。
道内からはNIEアド
バイザーの三上久代・札幌
月寒中教諭、毛利禎
晴・札幌丘珠高教諭ら8
人が各会場で耳を傾けた。
シンポジウム形式で行

用」では、学校と家庭が
協力して行っているファ
ミリーフォーカスの実践
例が取り上げられ、東京
都内の小学6年生の女子
児童がその場で新聞記事
を読み感想を述べたほか
全国紙の環境問
題キャンペーン
が地域の市民運
動に広がったこ
となどが紹介さ
れ注目された。

大会は、最後に「リテ
ラシーを育てるNIE」
のテーマで、シンポジウ
ムを行った。パネリスト
からは「NIEが目指し
ているのは、単なる読解
力、表現力の向上ではな
く、提言力や自己改革力
を培うことである」と
いった建設的な意見が出
された。

パレスチナ問題で活発な意見を
交わした公開授業(北星女子中2
年B組)



われれた初日の課題研究
「学校外に広がる新聞活
動」では、学校と家庭が
協力して行っているファ
ミリーフォーカスの実践
例が取り上げられ、東京
都内の小学6年生の女子
児童がその場で新聞記事
を読み感想を述べたほか
全国紙の環境問
題キャンペーン
が地域の市民運
動に広がったこ
となどが紹介さ
れ注目された。
司会を務めた
高辻清敏・北海
道新聞NIE
コーディネー
ターは「新聞活
用は子供に変容
が見られるよう
になって初めて
効果がでてくる
先生方の力量が
あった。」と

小中生記者 1400 人 記事年間 2070 本

『考える力』育て半世紀

毎年1400人前後のこども記者から約2070本の記事が届く「こども高知新聞」。高知新聞社は、先駆的なNIE活動として昭和25年5月に「こども新聞」を創刊、子どもの言葉の力、考える力の育成に寄与している。56年間の歩みと児童・生徒の記者としての取り組みなどを同社に寄稿してもらった。

学校に「支局」も

こども高知新聞は、小中学生の言葉の力、文章を構成・表現する力、社会への関心を引き出そうと昭和25年の「こどもの



日」にタブロイド判で始まった。「こども記者」の記事掲載のほか、図画、硬筆、毛筆、条幅の四部門に15万点前後の作品が応募される「こども県展」、読書感想文コンクール、審査会場で与えられた課

高知新聞の「こども新聞」

題で作文、図画などを競い、優秀者を海外に派遣する学習招待旅行などをする



実施し、学校・地域とのかかわりを深めてきた。こうした次代を育成するための新聞作りなどが評価され平成8年10月には新聞協会賞を受賞した。県内の約1400人のこども記者から記事が届く「こども高知新聞」

お知らせ

1月10日に 冬季研修会

NIE研究会

北海道NIE研究会は北海道NIE推進協議会と共催で、本年度の第2回実践交流会「冬季研修会」を1月10日午後2時から、北海道新聞社(札幌市中央区大通西3-6)のNIEプラザで開く。

朝日新聞北海道支社の伊藤裕章報道部長が同社

毎日新聞社が 新聞活用講座

1月27日

毎日新聞社主催の「新聞活用実践講座」が1月27日午後1時から、札幌

目玉構築が課題

平成17年度は県内の小中学校3分の1に当たる156校から1396人が記者に登録。学校でのこと、地域でのこと、身の周りの出来事、発見、感動などの記事が1年間に2070本も送られてきた。学校側の協力もひとかたならないものがあり、「学校支局」を作ったり、また、担当の記者もなるべくポツにしないよう子どもたちと何回も連絡を取りながら「記事の完成度」を深めている。

昨今、全国的に見ても小学校から大学までの若い世代の新聞購読率が低くなる傾向にあるが、こども新聞のおかげで高知の子どもたちの新聞購読

市民会館(札幌市中央区北1条西1丁目)で開かれる。新聞を理解し、新聞の活用方法を深めてもらうのが目的。毎日新聞北海道

率は決して低くない。教育現場の教諭は「ほかの子どもがどんなことを書いているのか、は関心事です。結構丁寧に読んで考えている。それに子ども作品が新聞に出ていれば、親も地域の親類も熱心に読むでしょう」と評価する。

平成20年夏には高知市で「第13回NIE全国大会」が開催される。こども新聞の歴史は古くても包括的なNIEとなると北海道、神奈川などに比べれば決して満足できるものではない。こども記者の新聞づくりはどうか、子どもだけのシンボはどうか、などと高知らしい目玉を構築すべく協議を重ねている。

道支社報道部の芳賀竜也記者が「日本ハムの今と未来」北海道スポーツ事情」をテーマに取材現場報告、続いて新聞活用の実践と課題について次の

編集後記

○…コンクールの審査などで、学級新聞やかべ新聞を見る機会が多い。良い作品には、子供たちの意欲がみなぎっていて、背後に担当の先生たちのポリシーやきめ細かな指導ぶりを読み取る。
○…それを、苫小牧市明倫中の石山勝英教諭と士別市温根別中の志満朋佳教諭の実践発表で実感した。新聞活動の経験が豊かな石山教諭は「新聞作りは学級作りの手段」が持論で、仲間はずれないクラスづくりに努める。
○…温根別中は、道北地方のかべ新聞コンクールで毎年入賞する常連校。志満教諭は、新聞制作を総合的な学習の時間の年間計画に組み込み、4月から具体的なスケジュールを立てて取り組む。
○…両教諭とも、地域社会をテーマに、「足で書く」生徒たちのやる気を支え、上手にリードしている。新聞作りで、アドバイスを求められることが多いが、要は先生たちの取り組み方次第と思う。(小)

4講師が講義する。
石狩市厚田中・橋詰典明教諭、札幌開成高・工藤幹男教諭、札幌山の手南小・朝倉一民教諭、北海道NIE協議会の高辻清敏コーディネーター。

2月に帯広・十勝セミナー

北海道NIE推進協議会主催の第5回帯広・十勝セミナーが2月10日午後1時から、帯広市西4条南9丁目、北海道新聞帯広支社2階会議室で開かれる。
小、中、高校で新聞を活用する授業に取り組む5教諭が実践例と学習成果を発表する。発表者は次の通り。問い合わせは当協議会事務局 ☎011-210・5802へ。

▽帯広市啓北小・佐藤敬示教諭▽幕別町白人小・森久彰教諭▽芽室町芽室西中・尾崎弥生教諭▽帯広三条高・沖野高志教諭▽池田高・平井恵一教諭